ユーザーマニュアル

t.c. electronic®
ULTIMATE SOUND MACHINES

重要 - 安全のために

正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは、人体に対して有害な高電圧の電気ショックを与えうる部品が本体内部に配置されていることを示します。

正三角形に括られた「！」サインは、本体の使用上、あるいはサービス／メンテナンス上で、重要な情報が製品に同梱の取扱説明書に含まれていることを示します。

1 必ずお読みください。
2 この書類は手の届くところに保管してください。
3 全ての警告をお守りください。
4 全ての指示に従ってください。
5 本機を水気の近くで使用しないでください。
6 本体の手入れは、乾いた布で乾拭きしてください。
7 換気に必要となる本体の開口部は塞がないでください。本体の設置は、製造者の指示に従ってください。
8 ラジエーター、ヒート・レジスター、ストーブ、音響用アンプリファイア等、またそれに限定されないあらゆる熱を発する機器の近くに設置しないでください。
9 極性プラグ、あるいは接地プラグの安全機構に手を加えないでください。極性プラグは、二つの金属ブレードの内、片側が大きく設計されています。接地プラグは、二つの金属ブレードに加えてアース用のピンがございます。これらは、安全のための機構です。付属のプラグがコンセントの形状に合わない場合は、旧式のコンセントの更新について最寄りの電気工事事業者までご相談ください。
10 電源ケーブルとプラグは、踏み付けられたりはさまれたりしない様に設置してください。特に、プラグとコンセント、そして本体と電源ケーブルが接続される周りにはご注意ください。
11 本機に設置するアクセサリーや装着器具は、製造者指定のもののみをご使用ください。
12 カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは製造者が指定するもののみを使用してください。カートを使用する際には、カートと荷物の移動による荷物の落下による事故にご注意ください。
13 落雷を伴う天候の場合、あるいは本機を長期間使用しない場合は、本機の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
14 本体の点検・修理が必要となった場合は、必ず認定技術者までご連絡ください。付属の電源ケーブルやプラグが破損した、液体を本体にこぼした、本体シャーシ内に異物が入ってしまった、雨や過度の湿度にさらした、本体の動作異常が生じた、本体を落としたなど、原因に関わらず本機に破損が生じた場合はサービスが必要です。

警告！

- 本体に水が垂れたり、はねる環境での保管・使用は避け、花瓶等液体の入った物を本体の上に置かないでください。電気ショック、あるいは火事等の恐れがあります。
- 必ずアースを正しく接続してください。
- 製品に同梱されているのと同様の、アース付 3 芯の電源ケーブルを使用してください。
- 適切な電源ケーブルとプラグ形状・動作電圧は地域によって異なります。
- 以下の表に従い、各地域の規格に準拠した電源ケーブルを使用してください。

電圧	プラグ規格
110-125V	UL817 and CSA C22.2 no 42.
220-230V	CEE 7 page VII, SR section 107-2-D1/IEC 83 page C4.
240V	BS 1363 of 1984. Specification for 13A fused plugs and switched and unswitched socket outlets.

- 本機は、電源ケーブルの抜き差しが容易に行える、コンセントの近くに設置してください。
- コンセントから完全に絶縁するには、パワーサプライのケーブルをコンセントから外してください。
- パワーサプライのプラグは容易に抜き差しができる様にしてください。
- 閉じられた空間に設置しないでください。
- 本体を開けないでください。人体に対して有害な高電圧の電気ショックの恐れがあります。

注意

本マニュアルに明示されていない本体への変更・改造を行った場合、本機器を操作する権利を失うことがあります。

サービスについて

- 本体内にユーザ保守可能なパーツはございません。
- サービスが必要となった場合は、必ず認定の技術者までご連絡ください。

本機器は FCC 基準 Part 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合するための試験に合格しています。これらの制限事項は、居住地域での設置時に生じうる有害な電波障害を規制するために制定されたものです。本機器は無線周波エネルギーを生成・使用しており、これを放射することがあります。指示に従った設置と使用を行わないと、無線通信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況において電波障害を起こさないという保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に障害を与えていないかを判断するには、本機器の電源を落としてから再投入してください。障害を及ぼすことがわかった場合、次の方法で障害の解消を試みることを推奨します。

- 受信アンテナの方向、設置場所を変更する
- 本機器と受信機の距離を遠ざける
- 本機器を受信機とは別の系統の電源回路に接続する

必要に応じて、販売代理店、または経験のある無線／ TV の専門技術者に問い合わせてください。

本機器は、他の Class B 準拠機器（コンピューター入出力機器、ターミナル、プリンター等）にのみ接続し、またその際のインターフェイス・ケーブルは、RF エミッションに関する Class B FCC 制限事項に適合するもののみをご使用ください。

CANADIAN CUSTOMERS
This Class B digital apparatus complies with *Canadian ICES-003.
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada
本 Class B 電子機器は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

CERTIFICATE OF CONFORMITY
TC Works Soft- & Hardware GmbH, Flughafenstrasse 52B, D22335 Hamburg, Germany, hereby declares by own responsibility that the following products:

POWERCORE FIREWIRE
POWERCORE COMPACT
POWERCORE PCI MKII
POWERCORE EXPRESS
POWERCORE UNPLUGGED

- marked with CE-label are covered by this certificate and conform with the following standards :

EN 60950 Safety for information technology equipment, including electrical business (IEC 60950) equipment.

EN 55022 Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics (CISPR 22) of information technology equipment.

EN 55024 Information technology equipment – Immunity characteristics –
(CISPR 24) Limits and methods of measurement.

With reference to regulations in following directives : 73/23/EEC, 89/336/EEC

Issued in Risskov, September 04

Mads Peter Lübeck
Chief Executive Officer

日本語

目次

連絡先

TC ELECTRONIC A/S
Customer Support
Sindalsvej 34
Risskov DK-8240
Denmark

www.tcelectronic.com
www.tcsupport.tc

USA:
TC Electronic Inc.
TC Works Customer Support
5706 Corsa Avenue, Suite 107
Westlake Village, CA 91362
www.tcelectronic.com
www.tcsupport.tc

テクニカルサポートについて

テクニカルサポートにつきましては、**www.tcelectronic.co.jp**（日本語）、あるいは **www.tcsupport.tc**（TC SUPPORT INTERACTIVE、英語）をご参照ください。

日本語

ハードウェア有限保証

製造または部品の欠陥によって生じた故障に対し、購入日より 1 年間の保証をいたします。この保証に基づいた連絡を行なう際は、本製品を購入した国に所在する TC Electronic 輸入代理店またはデンマーク国内の TC Electronic 本社までご連絡ください。製品をお送りになる前に、RMA 番号をカスタマサポートから取得してください。弊社が修理受付を許諾していない、または RMA 番号が発行されていない状態で到着した修理品は受領いたしましせん。

- 本製品は出荷時の箱に入れてしっかり梱包してください。
- 購入時の領収証のコピーを同梱してください。
- 送料は元払いで支払い、小包に保険をかけてください。
- 症状を記載したメモを同封してください。

保証期間内であれば、部品代・人件費を無償にて修理いたします。

この保証は、本製品のシリアル番号のラベルが外されておらず、かつ TC 認定のサービス担当者が修理を行っている場合にのみ、有効です。誤使用、事故、不注意によって生じた破損は保証の対象になりません。検討・検分をもとに保証の有効・無効を決定する独占的な権利は、各国地域の代理店および TC が保持します。

第三者による、またはその結果による直接的あるいは間接的な損失または損害は、それがいつどのように生じたとしても、TC 各社はこれに対する責任を一切負いません。

また本製品を購入使用する国によって、本保証規定で明示されている以外の法的な規定がある場合があります。

ご注意:　本製品が適合する安全基準の申請元による許可なしに本体が変更あるいは改造されている場合、使用者は機器の使用権利を喪失します。

警告:　PowerCore Firewire ／ Compact 本体を開けないでください。人体に有害なショックを与えうるパーツが含まれています。本体内に、使用者がサービス可能なパーツは含まれていません。本体のサービスは、認定サービスセンターにご連絡ください。PowerCore Firewire ／ Compact を設置する際には、通風と上下の空間が確保されたラックに行ってください。上下をふさがないでください。電気ショックや発火の危険性を防止するため、雨や湿度にさらさないでください。ツーリング・ラックに設置する場合は、本体の固定をフロントのネジのみに頼らないでください。運搬による破損や機材の誤動作が確認された場合は、販売店、TC 代理店、あるいはデンマークの TC 本社までご連絡ください。

はじめに

この度は、PowerCore をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。PowerCore は、ネイティブのレコーディング環境上でラックマウント・クオリティのエフェクトを実現します。一度いくつかのセッションでご使用いただいたら、セットアップ全体の中で重要な役割をその後長年に渡って担い続けることとなることと確信しております。

PowerCore は、クローズドな環境に終止符を打つ、エキサイティングなコンセプトの製品です。VST と Audio Unit 環境におけるシームレスな統合を実現し、ニーズに合わせたシステム構築を可能としならがらも、DSP ベースのメリットといえるパフォーマンスの予測性を提供します。

PowerCore は、オープンな開発プラットフォームであることも特徴の一つです。Sony、TC Helicon、DSound、Access、Noveltech など、多くのサードパーティー・ディベロッパーが製品を開発しております。また、サードパーティーのコミュニティは、成長しています。

ご意見、ご要望はご遠慮なくお寄せください。皆様からのフィードバックを反映させて、より優れた製品をお届けしたいと考えております。

ENJOY!
TC ELECTRONIC

ご注意

- **PowerCore で使用するプラグインは、本システム用に特別に作成されたものが必要です。ネイティブのプラグインは本製品の DSP パワーを活用することはできません。**
- **本マニュアルでは、特定の機種の記載がなされている場合を除き、「PowerCore」を PowerCore シリーズ全製品の総称として使用いたします。**
- **PowerCore PCI mkII は、「PowerCore Unplugged」という製品名でプラグインの付属しないヴァージョンも販売されております。本マニュアル内の「付属プラグイン」についての記載は、PowerCore Unplugged には該当いたしません。**

日本語

POWERCORE 動作環境

MAC

デスクトップ機、iBook、または PowerBook
G4 あるいは G5 機、733MHz 以上
Mac OS X（10.3.9、あるいはそれ以降）
512MB 以上の RAM

Firewire 及び Compact:

最低 1 基の空 Firewire ポート（400 Mbit IEEE 1394）

PCI mkII 及び Unplugged:

最低 1 基の空 PCI ／ PCI-X スロット

PCI Express:

最低 1 基の空 PCI Express スロット
VST あるいは Audio Units 対応のホスト・アプリケーション（Logic、Nuendo、Live、Digital Performer 等）

WINDOWS

デスクトップ機、またはラップトップ機
Pentium 4、1.4 GHz 以上
Windows XP
512MB 以上の RAM

Firewire 及び Compact:

最低 1 基の空 Firewire ポート（400 Mbit IEEE 1394）

PCI mkII 及び Unplugged:

最低 1 基の空 PCI ／ PCI-X スロット

PCI Express:

最低 1 基の空 PCI Express スロット
VST 対応のホスト・アプリケーション（Nuendo、Cubase SX、Live 等）

ご注意

仕様及び動作環境は、予告なしに変更されることがあります。www.tcelectronic.com で最新情報をご確認いただくことを強くお勧めいたします。

POWERCORE 仕様

POWERCORE COMPACT

- 2 x Motorola 56367 DSP ／ 150 MHz
- 512k Word SRAM（DSP 毎）
- 1 x 266 MHz Motorola 8245 PowerPC
- オンボード 8 MByte SDRAM
- 消費電力：＜ 10 W（一般）、ピーク最大 20 W
- 動作時環境気温:　0°C ～ 40°C
- 保存時環境気温:　-30°C ～ 80°C
- 湿度:　最大 90%（結露時を除く）

POWERCORE PCI MKII & POWERCORE UNPLUGGED

- 4 x Motorola 56367 DSP ／ 150 MHz
- 512k Word SRAM（DSP 毎）
- 1 x 266 MHz Motorola 8245 PowerPC
- オンボード 32 MByte SDRAM
- 消費電力：＜ 10 W（一般）、ピーク最大 20 W
- 動作時環境気温:　0°C ～ 50°C
- 保存時環境気温:　-30°C ～ 80°C
- 湿度:　最大 90%（結露時を除く）

POWERCORE EXPRESS

- 4 x Motorola 56367 DSP ／ 150 MHz
- 512k Word SRAM（DSP 毎）
- 1 x 266 MHz Motorola 8245 PowerPC
- オンボード 32 MByte SDRAM
- 消費電力：＜ 10 W（一般）、ピーク最大 20 W
- 動作時環境気温:　0°C ～ 50°C
- 保存時環境気温:　-30°C ～ 80°C
- 湿度:　最大 90%（結露時を除く）

POWERCORE FIREWIRE

- 4 x Motorola 56367 DSP ／ 150 MHz
- 512k Word SRAM（DSP 毎）
- 1 x 266 MHz Motorola 8245 PowerPC
- オンボード 8 MByte SDRAM
- 消費電力：＜ 10 W（一般）、ピーク最大 20 W
- 動作時環境気温:　0°C ～ 40°C
- 保存時環境気温:　-30°C ～ 80°C
- 湿度:　最大 90%（結露時を除く）

ソフトウェア・インストール・ガイド - WINDOWS

円滑にインストールを行なえる様、本ガイドの手順に従って設定を行なうことをお勧めいたします。

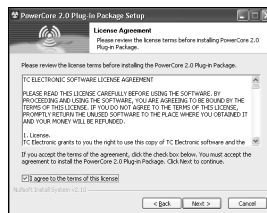
重要

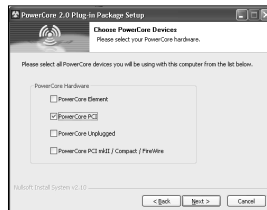
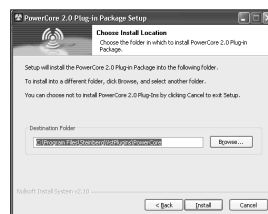
PowerCore ハードウェアをコンピュータに接続する前に、PowerCore ソフトウェアをインストールしてください。

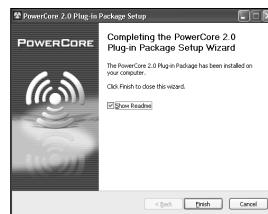
まずは、PowerCore CD を CD-ROM あるいは DVD-ROM ドライブに挿入するか、インストーラーを TC エレクトロニックのウェブサイト（www.tcelectronic.com）からダウンロードしてください。

1. 開いている他の全てのプログラムを閉じ、CD あるいはダウンロード先のフォルダにある SETUP.exe を起動します。

2. 画面の指示に従いインストールを行ないます。インストールを開始するには NEXT を押します。

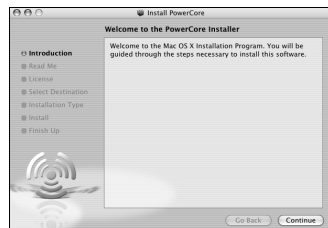
3. インストールを行なうには、TC ELECTRONIC SOFTWARE LICENSE AGREEMENT（TC エレクトロニック・ソフトウェア・ライセンス契約）に同意する必要があります。同意してインストールを続行する場合は「I agree to the terms of this license（本ライセンスに同意いたします）」をチェックし、NEXT を押します。

4. インストール先のコンピュータで使用する PowerCore ハードウェアのタイプを選択します。

日本語

6. インストール先を指定します。ディフォルトで表示されるインストール先から変更するには、BROWSE を押します。

7. インストールに必要な情報が収集されました。INSTALL/UPGRADE を押し、インストールを継続します。

8. インストールを完了するには、FINISH を押します。

ソフトウェア・インストール・ガイド - OS X

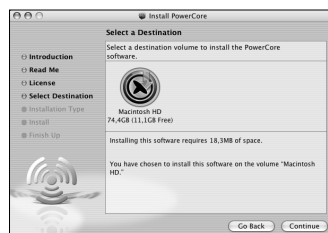
円滑にインストールを行なえる様、本ガイドの手順に従って設定を行なうことをお勧めいたします。

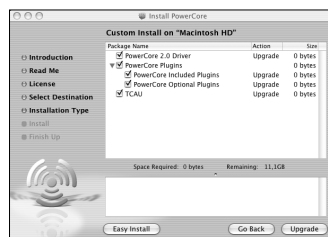
1. 14 ～ 16 ページの指示に従って、ハードウェアをインストールします。

2. PowerCore CD を CD-ROM あるいは DVD-ROM ドライブに挿入するか、インストーラーを TC エレクトロニックのウェブサイト（www.tcelectronic.com）からダウンロードしてください。

3. CD あるいはダウンロード先のフォルダからインストーラーを起動します。

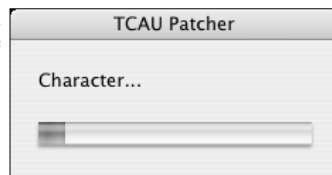
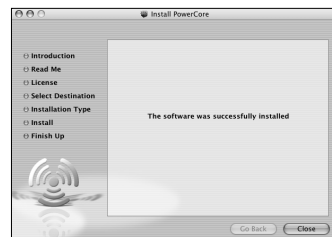
4. 表示される ReadMe 及び有限保証規定は、プリントあるいは保存できます。ReadMe ファイルは、インストール方法が変更された場合にはその手順の最新版を含みます。

5. CONTINUE（続ける）を押します。TC ELECTRONIC SOFTWARE LICENSE AGREEMENT（TC エレクトロニック・ソフトウェア・ライセンス契約）が表示されます。ご一読の上、同意してインストールを続行する場合は再度 CONTINUE を押します。

6. ソフトウェアのインストール先を指定し、CONTINUE を押します。

7. 「Easy Install」（簡易インストール、推奨）を行うか、「Custom Install」（カスタム・インストール）を行うかを選択します。

   カスタム・インストールでは、ソフトウェアの一部のみをインストールすることができます。簡易とカスタムのいずれかを選択したら、「Install」（インストール）、アップグレードする場合は「Upgrade」（アップグレード）」を押し、インストールを進めます。

8. 管理者の名前とパスワードを入力します。

9. 選択したハードウェアに合わせて必要となるソフトウェアがインストールされます。

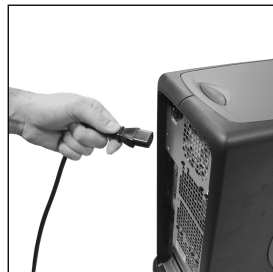
10. ソフトウェアのインストール後、TCAU パッチャーはシステムをスキャンし、使用可能な TC プラグインを検索した後に AU で使用できる様に準備を行います。この作業は自動的に行われますので、ユーザー側での操作は必要ありません。

11.「Close」（閉じる）を押し、インストールを完了します。

12. これで、PowerCore を使用する用意が整いました。

日本語

POWERCORE ハードウェア・インストール

POWERCORE PCI MKII ／ EXPRESS ／ UNPLUGGED ハードウェアの取り付け

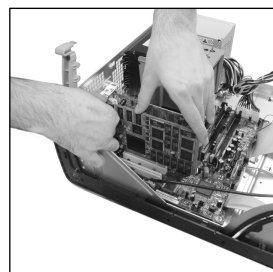
ここではお使いのコンピュータに PowerCore PCI mkII ／ Express ／ Unplugged を取り付ける手順を説明します。以下の例では Windows 機を使用しますが、コンピュータのケースの開け閉め以外、マッキントッシュでも取り付けの要領は同じです。コンピュータのケースによって、取り付けの手順は異なる場合があります。必ず、事前にコンピュータの取扱説明書をご参照ください。

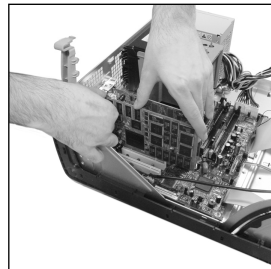
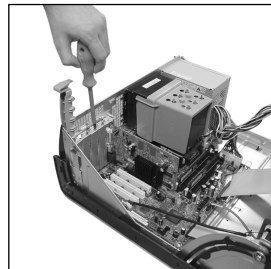
1. コンピュータをシャットダウンし、電源を OFF にしてから電源ケーブルを抜きます。

2. コンピュータを開きます。先に進む前に、必ず洋服や身体から静電気を除去してください。コンピュータの電源ケーブルが接続されている状態でコンピュータのケースの内部フレームに触れることで行えます。

3. ネジを外し、使用する空 PCI スロット * のネジとブラインドパネルを取り外します。

*) PowerCore Express は必ず PCIe スロットに装着してください。ご使用のコンピュータが PCIe に対応しているかどうかを確認するには、コンピュータの仕様をご確認ください。

PCI Express（PCIe）バスは、PCI バスの新しい仕様です。PCI と PCIe は物理的な形状が異なり、PowerCore Express を標準 PCI スロットで使用することはできません。

日本語

4. カードをゆっくりと挿入します。

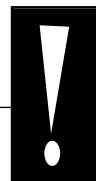
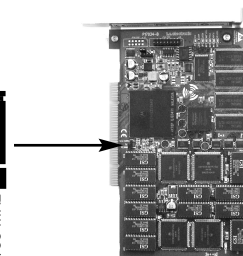
   スロットにしっかりと装着されていることを確認します。

5. コンピュータの移動などによって後でカードがゆるまない様に、ネジでしっかり締めます。

6. ケースを閉じ電源コードを接続します。

PowerCore PCI mkII ジャンパー設定

PowerCore PCI mkII ／ Unplugged は、33MHz と 66MHz の PCI バス・スピード両方に対応しています。

ディフォルトの設定では、PCI バスの速度に応じて 33MHz または 66MHz で作動します。ジャンパーを「Force 33MHz」に移動することにより、カードを強制的に 33MHz で作動させることができます。このジャンパーの移動は TC エレクトロニックのサービス・テクニシャンに指示された場合にのみ行ない、それ以外の場合においてはディフォルトの設定でご使用いただく様、強くお勧めいたします。その他のジャンパーは TC サービス・センターでのハードウェア・テスト専用のものですので、設定を変更しないでください。

ほとんどの Mac G5 モデルで採用されている PCI-X バス・アーキテクチャーは、PCI 互換です。PowerCore PCI mkII は、PCI-X ベースの機種と互換性があります。

日本語

POWERCORE FIREWIRE & COMPACT ハードウェア・インストール

1. コンピュータの電源を OFF にします。
2. PowerCore の電源を外します。
3. 付属 Firewire ケーブルの片側をコンピュータの空 Firewire ポートに接続します。
4. 同じケーブルのもう片側を PowerCore の空 Firewire ポートに接続します。
5. 電源ケーブルを PowerCore に接続し、PowerCore の電源スイッチを ON にします。
6. コンピュータを起動します。

NOTE:

必ず先に Firewire ケーブルを接続して、その後から PowerCore Firewire の電源を ON にしてください。

この手順は、**必ず**守ってください。

POWERCORE コントロールパネル

PowerCore コントロールパネルから、システムに接続されている PowerCore 全ての状態を確認できます。

- STATUS（ステータス）ページは DSP とメモリーの消費状態を表示します。これは、PowerCore 毎に限らず、各 DSP 回路の単位で表示されます。
- PLUG-IN（プラグイン）ページでは、ライセンス管理画面と、フリー・トライアルの残り時間、そしてライセンス購入へのリンクなどが表示されます。
- SETUP（セットアップ）ページでは、PowerCore の動作をオプティマイズするためのいくつかの設定が用意されています。

コントロールパネルの開き方（WINDOWS）

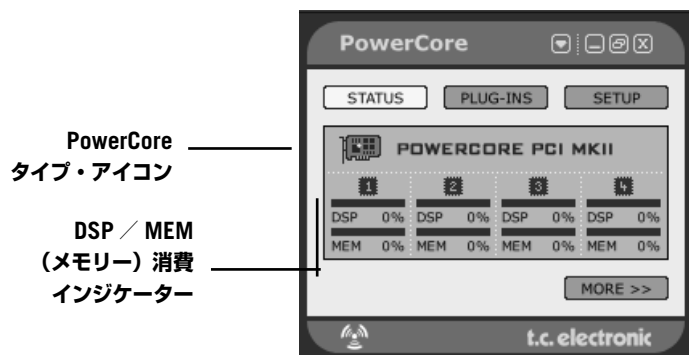
Windows 環境の場合、TC PowerCore コントロールパネルはスタート→設定→コントロールパネル→ PowerCore にございます。

コントロールパネルの開き方（MAC OS）

Mac OS 環境の場合、PowerCore コントロールパネルはドック：システム環境設定→その他→ PowerCore にございます。

初期設定のダイアログからコントロールパネルを開くには、CONTINUE を押します。

STATUS（ステータス）ページ

まずは、STATUS ページから見ていきましょう。

PowerCore タイプ・アイコン

使用している PowerCore のタイプを表示します。

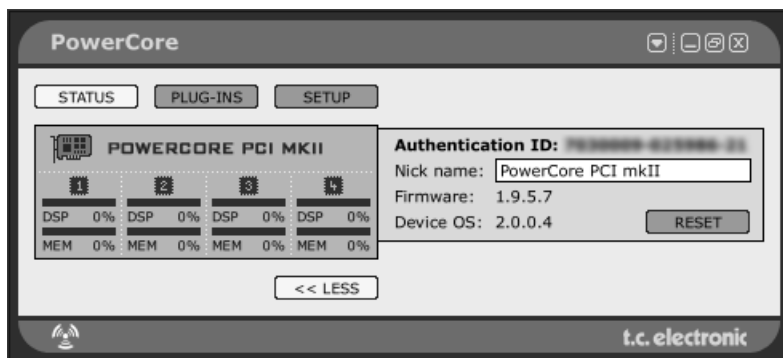
（続く）

日本語

DSP ／ MEM（メモリー）消費インジケーター

使用している PowerCore のタイプを表示します。この例にある PowerCore PCI mkII は、4 基の DSP とメモリー回路を搭載しています。各 DSP 毎に DSP 負荷と DSP の消費率が表示され、また MEM セクションには DSP 毎にどれだけのメモリーを消費しているかが表示されます。

MORE >>（モア）ボタン - STATUS ページの拡張表示

「MORE」ボタンを押すと、STATUS ページの表示領域が拡大されます。

AUTHENTICATION ID（オーセンティケーション ID）

オーセンティケーション ID は、シリアルナンバーとボード ID から構成されます。この数字のコンビネーションはボード毎に異なり、PowerCore の登録に必ず必要となります。

表示された番号をクリップボードにコピーする方法:

- ID 表示にマウスのポインターを移動して、右クリックします。
- 「Copy authentication ID to clipboard（オーセンティケーション ID をクリップボードにコピー）」を選択します。

クリップボードにコピーした ID は、必要に応じてその後オンライン登録フォームなどにペーストできます。

NICKNAME（ニックネーム）

複数台の PowerCore を使用している場合は、各機を区別しやすくするために、それぞれにニックネームを与えることができます。

RESET（リセット）ボタン

PowerCore をリブートします。選択している PowerCore で起動している全てのプラグインは停止します。RESET を行う必要性が生じた場合は、事前にセッションを保存してから閉じてください。そうしないと、ホスト側で存在しないプラグインを起動している状態となるため、複数のエラー・メッセージが表示される可能性が極めて高くなります。

PLUG-INS（プラグイン）ページ

PLUG-INS ページでは、使用可能なプラグインと、それらのステータスが一覧できます。使用している PowerCore のタイプによって、プラグインのステータスは異なります。

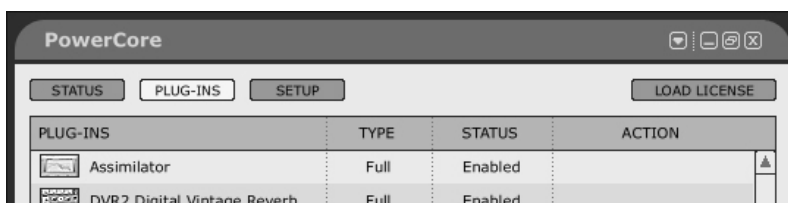
PowerCore 2.0 ソフトウェアでは、新しいライセンス管理のシステムが導入されました。2.x のライセンス・システムでは、プラグインの状況を確認しやすくなり、また時間限定のトライアル版が用意されています。

PowerCore 2.0 は旧 1.x ライセンス・システムにも対応しており、1.x 用にオーソライズされたプラグインは継続して使用できます。これらのプラグインは従来通り開くことができ、また使用することができますが、コントロールパネル上には表示されません。

一部のサードパーティー・ディベロッパーは 2.x ライセンス・システムを導入しないことも考えられます。この場合、これらのプラグインはコントロールパネルには表示されません。

オプション・プラグインの時間限定フリー・トライアル版

TC Electronic が販売元となるオプション・プラグインには、時間限定のフリー・トライアル版が用意されています。トライアル期間が過ぎると、プラグインを購入しないと起動しなくなります。

PLUG-INS ページには、プラグイン毎に、トライアル期間の残り時間が表示されます。使用するホスト・アプリケーションによって、時間の減り方は異なります。Cubase などでは、プラグインを開いた瞬間に時間が減りはじめ、ソングを停止している状態でも時間は減り続けます。一部の他のアプリケーションでは、再生中に信号がプラグインを通過している場合にのみ時間が減ります。

PLUG-INS（プラグイン）

PowerCore のプラグインがリスト形式で表示されます。新製品などの情報は、www.tcelectronic.com でご覧いただけます。プラグインを一度オーソライズすると、システム上で認識している全ての PowerCore 上でそのプラグインが使用できる様になります。

TYPE（タイプ）

NO INFO - 情報なし

プラグインのライセンスがヴァージョン 2.x ではないために、表示する情報がないことを示します。以前のヴァージョンの時にインストールしたプラグインなどに対して、この表示がなされます。

日本語

NOT AVAILABLE - なし

システムに 2.x ライセンス・システムに対応した PowerCore が存在しないために、表示する情報がないことを示します。このメッセージは、PowerCore PCI ／ Element のみで構成されたシステムを使用している場合に表示されます。

EXPIRED - 無効

ライセンスの期限が切れていることを示します。

REMOVED - 除去

ライセンスが除去されていることを示します。

BETA - ベータ版

プラグインがベータ版であることを示します。一部の機能が搭載されていないか、正しく作動しない可能性があります。

TRIAL - トライアル版

プラグインが時間制限付きのトライアル版であることを示します。期限が切れるまでは、全ての機能を使用できます。

BUNDLED - バンドル版

プラグインがシステム上にある PowerCore にバンドルされていることを示します。全ての機能を使用できます。

EDUCATIONAL - エデュケーション版

プラグインがエデュケーション（アカデミック）版であることを示します。再販不可です。全ての機能を使用できます。

NFR

プラグインが NFR 版であることを示します。再販不可です。全ての機能を使用できます。

FULL - フル版

プラグインがフル版であることを示します。全ての機能を使用できます。

LOAD LICENSE（ロード・ライセンス）

オプション・プラグインを購入した場合、ライセンス・ファイルが送られてきます。このボタンで、PowerCore にライセンスを保存します。

STATUS（ステータス）

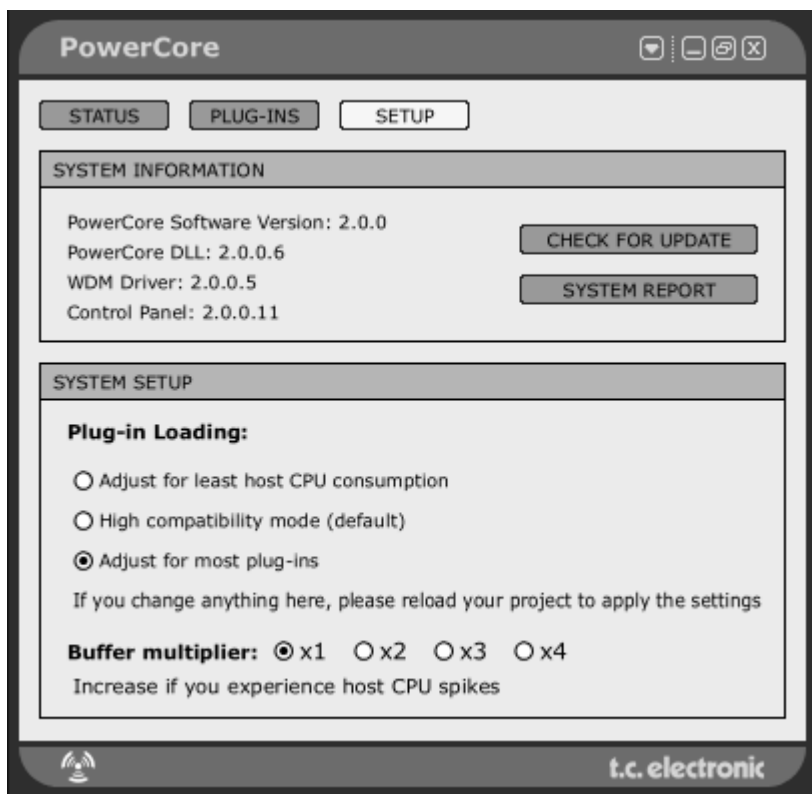
ENABLED - エンネーブル

プラグインがアクティベートされていることを示します。

カウンター表示（19:59:59...）

このカウンター表示は、プラグインのトライアル期間の残り時間を示します。使用するホスト・アプリケーションによって、時間の減り方は異なります。Cubase などでは、プラグインを開いた瞬間に時間が減りはじめ、ソングを停止している状態でも時間は減り続けます。一部の他のアプリケーションでは、再生中に信号がプラグインを通過している場合にのみ時間が減ります。

SETUP（セットアップ）ページ

コントロールパネルの SETUP タブをクリックすると、PowerCore の詳細な設定が行えます。

SYSTEM INFORMATION - システム情報

PowerCore ソフトウェア／ドライバー／コントロールパネルのヴァージョンを表示します。

CHECK FOR UPDATE - アップデートを確認

CHECK FOR UPDATE ボタンをクリックすると、ソフトウェアは自動的にインターネットに接続し、より新しいヴァージョンがダウンロード可能になっていないかを確認します。ダウンロードが開始する前に、確認のメッセージが表示されます。

SYSTEM REPORT - システム・レポート

弊社テクニカル・サポートにご連絡をいただいた場合、システム・レポートの提出をお願いすることがあります。これは、システム構成等の情報を含む小さいテキスト・ファイルです。システム・レポートを作成するには、SYSTEM REPORT ボタンを押します。ファイルは、デスクトップ上に保存されます。システム・レポート・ファイルには、個人情報は含まれません。また、この情報は、より適切なサポートを提供する目的にのみ使用いたします。

日本語

SYSTEM SETUP（システム・セットアップ）／ PLUG-IN LOADING - プラグイン・ロード方法

PowerCore システムの DSP にプラグインがロードされる方法をコントロールします。3 つのオプションが選択できます。

Adjust for least host CPU consumption - ホスト CPU への負荷を最小化

クリックやドロップアウトが生じる場合に選択します。

High compatibility mode - 高コンパチビリティ・モード

ディフォルトの設定です。ほとんどのセットアップでは、この設定で正しく作動します。

Adjust for most plug-ins - プラグイン数を最大化

CPU への負荷が小さいプラグインを多数使用する場合に適しています。

SYSTEM SETUP（システム・セットアップ）／ BUFFER MULTIPLIER - バッファー倍率

ホスト CPU の負荷が突発的に大きくなる CPU スパイクが確認されたら、PowerCore のバッファー・サイズを上げる必要が生じる可能性があります。オーディオ・ハードウェアのバッファーサイズに対する倍率（1 ／ 2 ／ 3 ／ 4）で変更できます。一部のアプリケーションでは、ADMA バッファーを増やすことによりコンピュータの CPU 負荷を軽減できますが、倍率に応じてレーテンシーも増加するために、CPU スパイクが生じている場合にのみこの設定を変更してください。

日本語

性能をフルに発揮させるには

バッファー設定

オーディオ・バッファーは、256 ～ 2048 サンプルに設定することをお勧めいたします（バッファーの設定は、通常ホスト・アプリケーションの I/O 設定画面から行えます）。原則として、バッファーの設定値が大きい程、PowerCore プラグインが DSP とコンピュータの CPU に与えるパフォーマンスのオーバーヘッドが低くなります。PowerCore は、1024 サンプルのバッファー設定で最善のパフォーマンスを得られる様にオプチマイズされています。PowerCore が正しく作動する最小のバッファー設定は、128 サンプルです。

DISABLED - プラグインのディスエーブル

PowerCore プラグインの DISABLED インジケーターが点灯している、あるいは画面に DISABLED と表示されている状態は、DSP が確保できないためにプラグインがバイパスされていることを示します。この状態は、サンプルレートを変更したり、多すぎる数の PowerCore プラグインを起動しようとした場合に生じます。プラグインがディスエーブル状態になるとプラグインはバイパスされます。パラメータやプリセット選択等の操作自体は行えます。

MegaReverb をインサートした際にこのエラーが生じたとします。この場合、次のエラーが表示されます：「The following error occurred with the PowerCore Effect ‘MegaReverb’: The PowerCore does not have enough free DSP resources available to load the Plug-in.」（PowerCore エフェクト'MegaReverb'で次のエラーが生じました： PowerCore は、プラグインをロードする DSP リソースが足りません。）続いて、ディスエーブルされたプラグイン自体にもそのステータスが表示されます。

図 1: 多くのプラグインは、ディスエーブルされた際に点灯するインジケーターを搭載しています。EQSAT Custom ／ 24/7-C ／ CLASSICVERB 等のプラグインでは、画面上に直接 DISABLED と表示されます。

図 2: 24/7-C では、VU メーター・ディスプレイのバックライトが消えて、DISABLED と表示されます。

日本語

96 kHz 処理

PowerCore の付属プラグインは、96kHz に対応しています。原則として、サンプルレートは高い程 DSP の消費は高くなります。サンプルレートが倍になると DSP への負荷も倍となり、例えば 48kHz で DSP の 50% を消費するプラグインは、96kHz では DSP の 100% を消費します。特定のプラグインがサンプルレート自体に対応していない場合は、そのサンプルレートでプラグインを起動した段階でディスエーブルされます。この場合は、プラグインの対応するサンプルレートに変更してください。

レーテンシー

レーテンシーとは?

一般用語としての「レーテンシー」は「遅延」を意味します。PowerCore プラグインでは、処理した信号をホスト・アプリケーションに戻すまでに若干の遅れが生じます。この遅れは現象としてタイミングのズレとしてあらわれ、トラックが楽曲のテンポに合っていない様に聴こえます。ほとんどのアプリケーションはこの遅延を自動的に補正する「Automatic Delay Compensation」（ADC、オートマチック・ディレイ・コンペンセーション）機能を備えています。

これは、プラグインがホスト・アプリケーション側に遅延の量を事前に報告することにより、ホスト・アプリケーション側がプラグインにその分だけオーディオの再生をあらかじめ早めることによって、プラグインの出力段階においてタイミングがそろう機能です。

ホスト・アプリケーションがこの機能を搭載していない場合は、付属の COMPENSATOR プラグインを使用することにより、プラグイン・レーテンシーの補正を行えます。具体的な手順につきましては、COMPENSATOR の PDF マニュアルをご参照ください。

ノー・レーテンシー・モード

PowerCore プラグインは、ノー・レーテンシー・モードのオプションを搭載しています。このモードを選択するには、プラグインの下にある PowerCore ロゴをクリックします。エンネーブルされると、ロゴが赤く点灯します。

このモードでは、プラグイン・レーテンシーを回避できます。ただし、その代償として CPU に極めて高い負荷をかけるため、通常は使用しないことをお勧めいたします。PowerCore のシンセサイザーをリアルタイムで演奏したい場合や、リバーブをレコーディング時のモニター系統に使用したい場合などに使用できます。

マスターフェーダーのレーテンシー

PowerCore プラグインをマスター・トラックで使用する場合は、最終的な音に一括してレーテンシーが生じるため、通常レーテンシーは問題となりません。

日本語

POWERCORE プラグインを使用するにあたって

PowerCore プラグインは、コンピュータの CPU ではなく PowerCore の DSP で演算を行う以外は、使用上「通常の」VST ／ Audio Units プラグインと変わりません。

PowerCore プラグインは、マルチトラック・オーディオやステレオ・マスタリング、そしてヴィデオ編集まで、VST あるいは Audio Units に対応している幅広いジャンルのアプリケーションで使用できます。

付属プラグイン *

プラグインの詳細と機能、そして操作法は、インストール CD-ROM に含まれているプラグインの PDF マニュアルをご参照ください。

付属するプラグインの種類と数は、予告なく変更となる場合があります。お買い上げの PowerCore に付属するプラグインについては、製品箱をご参照ください。

24/7-C LIMITING AMPLIFIER

24/7-C は、ミックスとマスタリングで定番のヴィンテージ機をインスピレーションに、説得力のあるヴィンテージ・コンプレッションとリミッティングを行います。ハードウェアのインターフェイスとサウンドを忠実に再現することを主眼として開発されており、極上のヴァーチャル・ヴィンテージ・サウンドを提供します。インターフェイスは極めてシンプルで、入力を上げることにより、レシオの設定値に応じてリミッターがドライブされます。

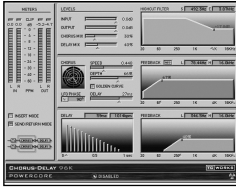
オリジナルの 4 ボタン（「同時押し」）モードもご使用いただけます。24/7-C 独自の機能として、素材に合わせて出力を自動的に合わせるための、オート・ゲイン・センシング機能を搭載しています。

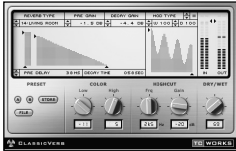
NOVELTECH CHARACTER™

CHARACTER は、デジタル信号処理と音響心理の領域における最先端の研究により実現した革新的なエフェクトです。

EQ やコンプレッサーなどオーディオ・プロセッシングの基本的なツールは多くの技術的なパラメーターを搭載しており、希望する結果を得るにはそれらを適正な値に設定しなければなりません。CHARACTER™ は、例えば特定の周波数を持ち上げるといったシンプルな処理ではなく、素材の中身に応じて多くの内部パラメーターを連動して変化させることによって、素材ごとに有効な特徴を引き出すためのインテリジェントな処理を行ないます。この革新的なアプローチは、ユーザーにとって、わずか 3 つのパラメーター操作で、ほぼ瞬時に目的の結果が得られることを可能とします。

** PowerCore Unplugged には、付属いたしません。*

日本語

CHORUS-DELAY

CHORUS-DELAY は、TC Electronic の TC 1210 空間エキスパンダーをベースとしています。コーラスやフランジャーなどのモジュレーション効果、そしてスラップ・ディレイを得られます。テンポ・ベースでの作業を行う場合に必需となる、ディレイタイムの BPM 入力機能も搭載しています。

CLASSIC VERB

CLASSICVERB は、リッチで独特なテキスチャーを特徴とするハードウェアのサウンドをベースとしたリバーブです。忠実な残響音の生成を目的とした MEGAREVERB とは根本的に異なる音色デザインが施されており、コンピュータ・ベースの作業に新しい選択肢を提供します。

COMPENSATOR

アプリケーションがプラグイン・レーテンシーの自動補正機能を備えていない場合に、タイミングをそろえるためのプラグインです。COMPENSATOR は、Power-Core の DSP は消費しません。このプラグインを使用する場合は、PDF マニュアルをご一読されることを強くお勧めいたします。

EQSAT CUSTOM

EQSAT CUSTOM は、TC Electronic 社の Finalizer に搭載されているアルゴリズムを採用した、マスタリング・クオリティの EQ です。3 系統のステレオ・パラメトリック EQ とローシェルフ／ハイシェルフで計 5 バンドの構成で、汎用性の高いクリーンなサウンドを特徴としています。

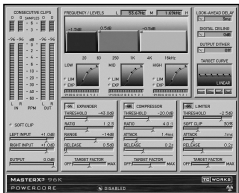
日本語

FILTROID

FILTROIDは、PowerCore環境で、デュアル・フィルターと充実したモジュレーション機能を搭載したアナログ・フィルター・バンクのサウンドを実現します。

FILTROIDは12／18／24 dB/oct.のスロープを持ったローパス／ハイパス／バンドパス選択可能なフィルターを2系統搭載し、フィルターは直列／並列を切り替えることが可能。サイドチェーン入力の機能も装備し、他のトラックをモジュレーションのソースとして使用できます。

モジュレーション機能も充実し、フィルター毎に独立したLFOとエンベロープ・フォロワーも搭載。テンポ同期にも対応し、シーケンサーの楽曲テンポに合わせたフィルターの開閉を行えます。また、歪みを加えることによりサウンドにさらなるエッジを与えることもできます。

フィルターのルーティング、莫大なモジュレーションの可能性、サイドチェーン入力、自己発振可能なレゾナンス、エンベロープ・フォロワー、ディストーションなど、緻密に設計されたアルゴリズムが、過激なフィルター効果を可能とします。

MASTER X3

MASTER X3は、エキスパンダー、コンプレッサー、リミッターのダイナミクス処理を3バンドで実現するマスタリング用のプラグイン。MASTER X3のマルチバンド・ダイナミクス処理は、音量と音圧の両面から周波数バランスを整えます。高品位なアンコレレーテッド・ディザーも搭載し、マスタリングの複数の処理を一つの行程に統合します。

MASTER X3は、全体の特性を方向づけるための「ターゲット・カーブ」機能の搭載により、目的のサウンドをより素早く得られます。バンド間の設定の相互関係の調節は、「ターゲット・ファクター」で行えるため、シンプルなパラメータ構成でパワフルな処理が行えます。さらに、ソフト・クリップ機能も搭載。目的に応じて、アナログ・ライクな質感を加えることができます。

MEGAREVERB

MEGAREVERBは、TCの特徴的な質感を継承したリバーブです。TC Electronic M5000に搭載されているCore 1と2アルゴリズムのテクノロジーをベースにしながらも、減衰成分においては、より新しい技術を採用しています。

POWERCORE 01

POWERCORE 01は、モノシンセの名機をエミュレート。CPUに負荷をかけることなく、シングル・オシレータながら攻撃的なリードやファットなベース音をつくりだします。

日本語

POWERCORE CL

POWERCORE CL は、VOICESTRIP や 24/7-C とは異なるコンプレッションを行います。その特性は、高い汎用性を特徴とする、業界標準のアナログ機をエミュレートしています。

VOICESTRIP

VOICESTRIP は、ヴォイスの処理に特化したチャンネル・ストリップで、コンプレッサー／ディエッサー／ヴォイス EQ ／ローカット・フィルター／ゲートを統合しています。

TUBIFEX

TUBIFEX は、12AX7 チューブのウォームなサウンドをベースとした、3 段階のチューブ・ステージを持ったヴァーチャル・チューブ・ギター・アンプです。各チューブの特性は独立して調節できるため、極めて可能性の広い音づくりが可能です。スピーカー・シミュレーターは実際の 2 x 12"キャビネットのインパルス反応を元にデザインされており、フロントパネルのツマミでマイクのポジションを調節することができます。

さらに、フィンガープリント方式のフィルターを採用したノイズ・リダクションと、エキスパンダーを搭載しています。ノイズ・リダクション・セクションの設定は、アンプの設定と独立して保存することが可能です。

TUBIFEX はギタリストによるリアルタイムでの使用を考慮し、ネイティブ CPU と DSP を併用したハイブリッド処理を行ないます。ハイブリッド処理ではそれぞれの方式の利点となる部分を使用し、DSP パフォーマンスをオプティマイズしながら低レーテンシーな処理を実現します。

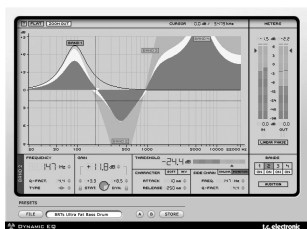
POWERCORE FIREWIRE、POWERCORE PCI MKII、及び POWERCORE PCI EXPRESS にのみ付属のプラグイン： *

DENOISE

DENOISE は、TC の RESTORATION SUITE バンドルに含まれているプラグインです。

DENOISE は、テープヒスやスタティック・ノイズなどの、ブロードバンド・ノイズの除去を行なう用途にオプティマイズされています。

DENOISE はフィンガープリント方式を採用し、解析したフィンガープリントを元により緻密な処理ができる様、手動での調節を行なうためのエディット・ツールを搭載しています。

ヴァージョン 1.5 では、フィンガープリントを採取できない素材でもノイズ除去を行える「AUTO」モードが追加されました。また、左右チャンネルに独立したフィンガープリントを適用することが可能となりました。

DYNAMIC EQ

DYNAMIC EQ は、あらゆるミックスまたはマスタリングの場面で活用できる新しい種類のツールです。一般的な静的な特性を持った EQ とは異なり、動的な EQ 処理を施すことができます。

DYNAMIC EQ は、4 つまでのバンドを持ち、それぞれをスタティック（静的）かダイナミック（動的）、あるいは両方で作動させせることができます。各バンドはパラメトリック EQ あるいはロー／ハイ・シェルフが選択できます。サイドチェーンのバンドはプロセッシングのバンドと独立させることができるため、例えばミックスの高周波数成分をローエンドのサイドチェーンとしたり、その逆が可能です。このプラグインの処理は、全て 48 ビットダブル・プレシジョンで行なわれ、さらにトランスペアレントな処理が必要とされる場合にはフェーズ・リニア・モードも用意されています。

DYNAMIC EQ は、PowerCore プラットフォームのマスタリング・ツールの中でも、新しい世代のものです。このヴァーチャル・プロセッサーは、ダイナミクス処理と EQ を融合させることにより、スタティックな EQ の制限を取り払います。

PowerCore に付属するこれらのプラグイン以外にも、幅広い種類のオプション・プラグインが用意されています。これらは、TC Electronic 以外にも Sony、Access、Novation、TC Helicon、DSound といったサードパーティのディベロッパーが開発しています。オプション・プラグインは、世界中の販売店や、TC のウェブ・ショップから購入できます。

オプション・プラグインを購入すると、そのライセンスは特定の PowerCore ハードウェアに対して与えられ、情報は電子メールで提供されます。そのため、PowerCore と電子メールのアドレスを登録することが必要となります。

** PowerCore Unplugged には、付属いたしません。*

日本語

MAC OS X で POWERCORE を使用する場合

PowerCore は、OS X の VST と Audio Units に対応しています。OS X では、PowerCore プラグインは常に同じ場所にインストールされます。この方式は、シーケンサーと波形編集のアプリケーションを併用する場合など、複数のアプリケーションで同じプラグインを使用する場合に、大きい利便性をもたらします。

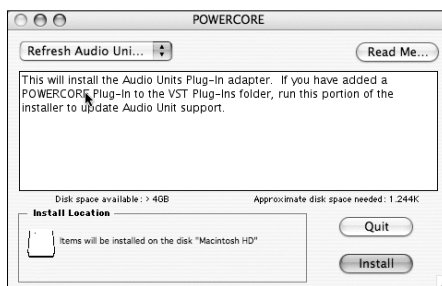
PowerCore プラグインの Audio Units 対応は、VST プラグインを Audio Units フォーマットに適合させるためのアダプターを使用しています。Logic 等の Audio Units 対応ホスト・アプリケーションでは、プラグインは通常の Audio Units プラグインとして作動します。この Audio Units のラッパーは、Sony、TC Helicon、Access 等のサードパーティー製 PowerCore プラグインでも使用できます。

ドメインについて

OS X はネットワーキングを想定した構造を持ち、「ドメイン」という観念が存在します。PowerCore プラグインは、ローカル・ドメイン、あるいはユーザー・ドメインのいずれかにインストールされます。ローカル・ドメインは、複数のユーザを持つことができます。

PowerCore のプラグイン自体はローカル・ドメインにインストールされ、プリセットはソフトウェアをインストールしたユーザーのドメインにインストールされます。プラグインは VST としてインストールされます。Audio Unit 対応は、TCAU Audio Unit コンポーネントを通して行なわれます。

追加したオプション・プラグインを AudioUnit で使用する場合

新しいオプション・プラグインを追加する場合は、TCAU Audio Unit コンポーネントを更新する必要があります。TCAU Audio Unit コンポーネントの更新は、PowerCore インストーラから「Refresh AudioUnits Only」オプションを選択することで行えます。

プラグインのインストール場所（ローカル・ドメイン）

OS X / Library / Audio / Plug-ins / VST

コントロールパネルのインストール場所

OS X / Applications

PowerCore プラグイン・プリセットのディフォルトの保存場所

OS X / [ユーザ名] / Library / Applications Support / PowerCore

日本語

WINDOWS で POWERCORE を使用する場合

Windows 環境で PowerCore プラグインを使用するには、PowerCore プラグインを VST プラグインと同じ場所にインストールする必要があります。インストーラーは、インストール時に該当するフォルダを自動的に検索し、そこから保存場所を指定できます。

例：
Program Files / Steinberg / VSTPlugIns / PowerCore

DIRECT X ラッパー

一部の Windows ソフトウェアは、VST の代わりに DirectX プラグイン・フォーマットを採用しています。PowerCore は、DirectX に直接対応していません。Sonar などの DirectX アプリケーションで PowerCore を使用するには、Cakewalk 社の VST-DX Adapter 等が必要となります。このソフトウェアは、Cakewalk 社のウェブサイトから有償で入手できます。

TC は DirectX をサポートしていないため、DirectX ラッパーをご使用の場合のお問い合わせにはお答えできません。対応状況等につきましては、ラッパーの開発元にお問い合わせください。

POWERCORE FIREWIRE エラー・メッセージ

POWERCORE FIREWIRE フロントパネル

フロントパネルのパワー・パルスと LED は、本体の動作状況のインジケーターとして作動します。

POWER（パワー）LED

電源 ON 時に点灯します。

パワー・パルス

ブート中、パワー・パルスは最大の輝度で点灯し、その後 PowerCore ボード OS とドライバーがロードされるまでパルスします。プラグインが起動した場合は、パワー・パルスは一回点滅します。はじめのプラグインが起動した時点でパルスは点灯に変わります。

ERROR（エラー）LED

本体に異常が生じた場合に点灯します。ERROR LED が点灯したら、TC サポートまでご連絡ください。

トラブルシューティング

最新のドライバーはどこでダウンロードできますか?

TC では、継続的に PowerCore ソフトウェアに改良を加えています。製品に付属するソフトウェアをインストールする前に、それが最新版であるかどうかをウェブサイトにてご確認いただくことをお勧めいたします。

PowerCore ソフトウェアの最新版は PowerCore の製品ページからダウンロードできます（英語サイト www.tcelectronic.com の場合）。製品メニューから PowerCore を選択し、そのページ内で「Latest Software」の項目をご選択ください。ソフトウェアの最新版の隣に、ソフトウェアの更新履歴がご覧いただけます。

48kHz から 96kHz にしたら、プラグインが半分しか起動しなくなってしまいました。

これは、正常な動作です。サンプルレートを倍にした場合は、DSP の消費量も倍となります。

POWERCORE プラグインが、アプリケーションからの選択肢にあらわれません。

プラグインが正しく VST ／ AudioUnit プラグイン・フォルダにインストールされているかをご確認ください。一部のプラグインのみが見えない場合は、次の項目をご参照ください。

ミキサーのインサート、センド、あるいはマスターから、一部の POWERCORE プラグインが見えません。

他の VST ／ Audio Unit プラグイン同様、PowerCore プラグインは入出力の構成に応じていくつかのヴァージョンが存在します（mono/mono、mono/stereo、stereo/stereo）。ホストアプリケーションとプラグインの組み合わせによっては、インサートやセンドなどで、該当する種類のプラグインしか表示されません。

Logic か Digital Performer からプラグインを起動すると、アプリケーションが終了してしまいます。

Logic や Digital Performer など Audio Units にのみ対応したアプリケーションを使用する場合でも、プラグインが VST と Audio Units フォルダ両方にインストールされている必要があります。VST 版のプラグインを削除すると、Audio Unit 版の PowerCore プラグインは正しく起動しません。この様に一部のファイル／フォルダが欠けている場合は、再度プラグインをインストールしてください。

a. POWERCORE プラグインの入力がクリップしています。
b. 音が歪みます。

POWERCORE プラグインの入力ピークが 0dBFS 以内に収まる様にレベルを設定してください。

日本語

POWERCORE プラグインをインサートしたら、素材がモノラルになってしまいました。

PowerCore プラグインは、入出力フォーマットによって異なるヴァージョンが用意されているものがあります。プラグインによっては、mono/mono ・ mono/stereo ・ stereo/stereo と、3 種類用意されているものもあります。プラグインを選択時に、同じ名称のプラグインが複数選択できる状態にある場合は、正しい入出力のフォーマットをご選択ください。ステレオの素材に対して mono/mono や mono/stereo を使用すると、入力段で素材がモノにサミングされます。

a. プラグインが起動しません。
b. プラグインの起動はするのですが、音がでません。

プラグインのオーソライズに問題がある可能性があります。まず、付属プラグインでこの現象が出た場合は、一度プラグインの再インストールをお試しください。症状が改善されない場合は、テクニカルサポートまでご連絡ください。

オプションの PowerCore プラグインでは、購入したプラグインを自由にバックアップできる代わりに、他の PowerCore のシステムにインストールしても正しく作動しません。多くのオプションの PowerCore プラグインは、特定の PowerCore が装着あるいは接続されている場合にのみ起動する様に設計されています。オプションの PowerCore プラグインが正しく起動しない場合は、プラグインの開発元にご相談ください。

出力がおかしくなってしまいました。

PowerCore が正しく作動する最低の I/O バッファーは 128 サンプルです。ホストアプリケーションの I/O バッファー設定をご確認ください。PowerCore は、1024 サンプルの設定において一番ホストへの負荷が少ない様に設計されています。

Digidesign Pro Tools で PowerCore を使用したいのですが。

Pro Tools は TDM と RTAS という独自のプラグイン・フォーマットを採用しており、VST と Audio Units には対応していません。そのため、PowerCore は直接 Pro Tools で使用できません。サードパーティー製品として、FXPansion 社から VST-RTAS ラッパーが発売されており、こちらを使用することにより Pro Tools 上で PowerCore プラグインを標準的な RTAS プラグインとして使用することができます。このテクノロジーに関する詳細は、www.fxpansion.com をご参照ください。

テクニカルサポート

TC ELECTRONIC ナレッジベース（英語のみ）

以上の項目が問題を解決しない場合、そして英語にご抵抗のない方は、www.tcsupport.tc のナレッジベースをご参照ください。

ナレッジベースにお求めの情報がない場合は、TC サポート・チームまでご連絡ください。

TC サポート・チームへの連絡

よりスピーディーに的確な情報をお伝えできるよう、TC サポート・チームに連絡する場合は、次の情報を事前にご確認いただく様お願いいたします。

1. PowerCore のオーセンティケーション ID

この情報は、PowerCore コントロールパネルの STATUS タブで確認できます。PowerCore コントロールパネルの開き方については、ページ 17 をご参照ください。

2. システム構成の詳細

的確なアドバイスを差し上げるには、OS の正確なヴァージョンを知る必要があります（Windows XP SP2、Mac OS X 10.3.9、等）。サポートにご連絡いただく前に、今一度 OS の正確なヴァージョンをご確認ください。

また、CPU の速度と搭載 RAM の量を伺うことがあります。Windows では、My Computer（マイコンピュータ） > Properties（プロパティー） > General（一般）でこの情報を確認できます。Mac OS X では、アプリケーション > ユーティリティから「システム・プロファイラ」を開きます。

ハードウェアやコンピュータ自体に特殊な改造や構成の変更を行なっている場合は、この情報もお知らせください。

3. 周辺機器

コンピュータと PowerCore 以外にご使用の周辺機器をお知らせください。周辺機器は、PCI カード、USB 機器、Firewire 機器などを含みます。

4. PowerCore ドライバーのヴァージョン

この情報は、PowerCore コントロールパネルの STATUS タブで確認できます。PowerCore コントロールパネルの開き方については、ページ 17 をご参照ください。

5. トラブルの内容

エラーメッセージが表示される場合は、必ずその内容を書き控えた上でご連絡ください。この情報は、TC サポート・チームが状況を把握する上で極めて重要です。

また、問題を再現するための手順を、できるだけ具体的にお知らせください。

これらの情報は、より的確なアドバイスをスピーディー差し上げるために必要となりますので、サポートにご連絡をいただく際には、ご面倒ではございますが、ご協力をお願いいたします。

* *RTAS/Pro Tools の対応は FXPansion 社によるサードパーティーの VST-RTAS ラッパーによるものです。このソルーションは、オプションとなります。詳細については、www.tcsupport.tc をご参照ください。*